

月例研究会（2017年9月20日）

## 日本における 国家社会主義運動と女性

海妻 径子

本報告は、男性中心の運動とみなされてきた近代日本の国家社会主義運動に、女性がどう関与したのか、大原社会問題研究所所蔵資料にも依拠し実施中の調査研究の、中間報告である。

国家社会主義運動に着目する動機は、「国家主義と女性とのかかわり」に関する先行研究が、国防婦人会研究などのように、もっぱら行政・軍部による「上からの動員」に応召した女性たちへ焦点をあててきたことへの疑問である。大衆ファシズム運動が盛んであったドイツ等とは異なり、日本では革新官僚・軍部主導で国家主義が推進されたとされる。二・二六事件など行動右翼のテロや武装蜂起との関連で言及される場合を除き、国家社会主義運動に対する研究自体が少なく、ましてやそこでの女性の存在にはほぼ光が当てられてこなかったと言ってよい。

本報告ではまず、近代日本の国家社会主義運動を、①高島素之による経綸学盟の結成 [1923 / 大正 12 年] に続く、国家社会主義の理論構築運動、②元・建国会の津久井龍雄による急進愛国労働者総連盟の結成 [1929 / 昭和 4 年] に続く、愛国（科学的日本主義）労働運動、③赤松克麿の社会民衆党からの脱退 [1932 / 昭和 7 年] 以降の、国家社会主義政党的結成・再編をめぐる動き、の 3 系統に分類整理した。

続いて各系統に、どのような女性活動家の存在が確認できたか、報告した。前掲②系統の団

体「急進愛国党」関連で「急進愛国婦人連盟」の存在は知られてきたが、「急進愛国党」機関紙『急進』『興民新聞』の大原社研所蔵分には、同婦人連盟の活動の記載は確認できなかった。同じく②系統の「国粋大衆党」の下部団体「国防婦人連盟」については、大原社研所蔵の機関紙『国粋大衆』に、以前より知られた同連盟代表・中山能子以外の役員名の記載があった。当時の労働組合婦人部の役員は上部団体男性役員の妻や姉妹が多かったが、国防婦人連盟役員に男性役員の親族女性とおぼしき名前はみられず、女性の活動の自律性が示唆された。「国粋大衆党」の基盤は都市公共交通機関労働者であり「国防婦人同盟」も同様と考えられるが、彼女たちの職務・働き方が同盟の活動の自律性につながったのかの解明は、今後の課題である。

③系統の「日本国家社会党」の婦人部「日本国家社会主義婦人同盟」については、機関紙『婦人戦線』が 1 号から 7 号まで大原社研に所蔵されており、その記載から、かねてより同同盟幹部として知られていた赤松明子・小池元子以外に、陶山倭文子が読書会講師を務める等中核的役割を担っていたことがわかった。倭文子は陶山篤太郎の 2 番目の妻・近藤静子ではないかと推測され、今後、裏付調査を行う予定である。

理論研究の面が強い①系統は帝大出身男性が中心となったため、関与した女性達がいれば、高等女学校出身者と考えられるが、日本主義学生運動の女学校への波及については先行研究も少なく、今後の研究課題である。また皇国婦人会（会長・小林つた子）など、より観念右翼性の強い女性団体が、日本主義化していく国家社会主義運動に関与していなかったのかについての調査も、今後の課題としたい。

（かいづま・けいこ 岩手大学人文社会科学部准教授 / 法政大学大原社会問題研究所客員研究員）